

調査対象地域の概要

1. ルーマニアの概要

1) 地理・気候・風土

欧州東南のバルカン半島に位置し、北はウクライナ、北東はモルドバ共和国、西はハンガリー、西南はユーゴスラビア、南はブルガリアと国境を接しており、東は黒海に面する。緯度的にはほぼ北海道に相当する。面積は 23.7 平方キロメートルで、日本の本州とほぼ同じ広さである。

地勢的には、国の中央に「つ」の字型に湾曲して走るカルパチア山脈と、長く国境を形成するドナウ川が特徴的である。カルパチア山脈に囲まれた国の北西部がトランシルバニア地方と呼ばれ、海拔 400～600m の台地である。ドナウ川はその全長の 3 分の 1 強の 1,075km がルーマニア国境沿いを流れ、ドナウ・デルタを形成しつつ黒海に注いでいる。カルパチア山脈とドナウ川との間はルーマニア平野と呼ばれる肥沃な地域で、ルーマニアの穀倉地帯である。カルパチア山脈の東側はモルドバ地方と呼ばれる台地である。

気候は、四季のある温帯的気候で、春は短く秋は比較的長い。夏冬の温度差は日本より大きく、冬の平均気温は零下 3 度以下だが、最低気温が零下 20 度以下となることもある。夏は平均 22～24 度位であるが、日中最高気温が 30 度を超える日が続くこともある。2000 年ではブカレストでの最高気温が 40 度を超えた。なお、降雨量は年間平均で 600～700 ミリ程度である。

2) 社会・文化

ルーマニアの人口は 2,249 万人（2000 年 1 月現在）で、中東欧ではポーランドに次ぐ規模である。人口の 89.4% がルーマニア人で構成されている。主要な少数民族として、ハンガリー人 162 万人、ドイツ人 12 万人、ロム（ジプシー）40 万人、ウクライナ人 6.6 万人、セルビア人 2.9 万人などが住んでいる。首都はブカレスト市で、人口は約 210 万人である。

宗教は国民の大多数（86%）がギリシャ正教で、他にカトリック、プロテスタントもいる。

3) 社会経済的な状況

戦後半世紀にわたる共産主義体制（そのうち 25 年間はチャウシェスクによる独裁体制）の後、1989 年 2 月の革命を経てイリエスク大統領が率いる救国戦線政権（旧共産党系）が誕生し、市場経済への移行が始まった。しかし、旧共産主義の影を強く引きずる体制であったため、他の中・東欧諸国より遅れをとった。実質的には、1996 年 12 月に成立した中道右派政権によって本格的な市場経済への移行が始まったといえる。

1999 年には政府組織の民営化による生産性の向上や、活発な民間投資・通貨の切り

下げも加わって、繊維等を中心とする軽工業が成長して輸出が急増した。その結果、表-A-4-1 に示した主要指標からもわかるとおり、2000年 1.8%、2001年 5.3%、2002年 3.5%と、3年連続で経済成長を果たした。加えて、強い政治的リーダーシップによって、公務員数の削減や補助金支出の削減など緊縮財政が実施されている。そのため、長年の懸案であるインフレ率（2000年 45.7%、2001年 34.5%、2002年 22.7%）や、財政赤字（2000年-3.7%、2001年-3.5%、2002年-3.0%）は徐々に改善している。

なお、ルーマニアは 2007 年の EU 加盟実現を目標に、着々と国内の整備を進めている。

表-4-1 ルーマニアの主要指標一覧

	主要指標項目	1990年	2000年	2001年	2002年
社会 指 標	国土面積（千 km ² ）	23.8	23.8	23.8	23.8
	人口（百万人）	23.2	22.4	22.4	21.8
	人口増加率（%）	-0.1	-0.1	-0.2	-0.3
	失業率（%）	n/a	10.5	8.6	8.1
経 済 指 標	GDP（10 億 US ドル）	38.3	36.7	38.7	42.4
	一人当たり GDP（US ドル）	1,640	1,644	1,752	1,979
	実質 GDP 成長率	-5.6	1.8	5.3	3.5
	産業構造（対 GDP 比：%）				
	農業	20	13	14.8	13.1
	工業	50	36	37.0	38.1
	サービス業	30	54	48.1	48.8
	産業別成長率				
	農業	n/a	n/a	25.2	-3.9
	工業	n/a	n/a	7.5	7.2
	サービス業	n/a	n/a	0.4	5.6
	消費者物価上昇率（%）	5.1	45.7	34.5	22.7
	財政収支（対 GDP 比：%）	n/a	-3.7	-3.5	-3.0
経常収支（対 GDP 比：%）	-9.6	-3.7	-6.1	-5	

出展：平成 16 年度 JICA 簡易版国別事業実施計画書 ルーマニア国

2. 黒海南部沿岸の概要

1) 地理・気候・風土

調査の対象地域である黒海南部沿岸は、コンスタンツァ県に位置しており、その県庁所在地は黒海に面したコンスタンツァ市である。同市は、黒海が地中海とつながるトルコのボスポラス海峡から約 335km、ドナウデルタの南端まで約 80km、ウクライナ国境まで約 150km の地点にある。

コンスタンツァにおける 1901 年～1990 年の年平均気温は 11.3° C で、年間平均降水量は 382.6mm である。

また、コンスタンツァにおける年平均湿度は約 80%と高い。概して冬場は 90%近くに達し、夏場は 70%以下の日が多い。

周囲を陸地で囲まれた黒海は、干満差のほとんどない海として知られていて、ルーマニアの海岸で 30cm 程度である。また、黒海は同じ内海であるペルシャ湾や紅海などに比べて水深が深く、黒海の 2分の1以上の面積において水深が 1,000m 以上である。黒海は、ボスポラス海峡で地中海とつながっている。しかし、両海域とも干満差が小さいこと、ボスポラス海峡の最小幅が数百 m と狭いことから、海水交換量が少ないため、黒海は実質的に閉鎖海域と考えることができる。

ルーマニアの海岸に沿った海流は時計回りであるが、沖合では反時計回りの流れとなる。ただし、海流は卓越したものではなく、風の影響を受けてこれとは異なる流れとなることも多い。

コンスタンツァにおける風向きの頻度分布は、西風が 19%、北風 16%、北東風と南東風がそれぞれ 12%、東風が 12%である。

最近 30 年間に於いて、この地域に襲った風速 20m/s 以上の暴風は、平均して年 3 回である (Apele Romane の回答書)。また、80%の暴風の風向きは北、平均的な暴風の継続時間はおおよそ 30 時間である。最大の風速は約 40m/s、そのときの最大波高は 9.5m であった (eurosion : Mamaia)。

ルーマニアの黒海沿岸の砂は、ドナウ川から流下したものか、貝殻が壊れてできたものであり、粒土は細かく明るいグレー色をしている。

2) 主要な産業

a. 観光およびリゾート

黒海南部沿岸にとって、観光およびリゾートは重要な産業の一つである。1994 年の観光省の統計調査によれば、全国で約 8 万軒あるホテルやモーテルのうち、40%以上にあたる約 3 万 8 千軒が、Constanta 県の黒海沿岸に位置している。例えば、Mamaia には約 2 万 2 千人分の宿泊施設があり、黒海沿岸で最大のリゾート地となっている。この他、Eforie Nord には約 1 万 5 千人分、Eforie Sud には約 1 万人分の宿泊施設がある。したがって、海岸侵食による砂浜の喪失、海岸近くに建てられたリゾート施設への

被害は、この地方にとって重要なマイナス要因である。

b. 漁業

1960年から1970年にかけては、ルーマニアの黒海沿岸で26種類の魚を商品として漁獲していた。ところが、漁法の発達等による過剰な漁獲や違法な漁により、1980年代にはたった5種類の魚のみに減ってしまった。現在では、50種類以上の魚が黒海の希少種としてレッドブックに載せられている。

なお、漁法は漁船によるものの他、定置網も設置されている。ただし、NIMRD職員の話によれば、ルーマニアの黒海沿岸には日本の漁業権のようなものは存在しないということであった。